

事務事業マネジメントシート（20年度実績と21年度計画）

21年度予算編成後 平成 21 年 5 月 19 日 作成
20年度決算把握後 平成 21 年 5 月 20 日 作成

事務事業名		建山2号線交通安全施設整備事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	1	人々が、安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	都市建設部	課長名	上原 哲也
	施 策	3	交通安全対策の推進			所属課	建設課	担当者名	川俣 洋一郎
	基本事業	10	交通安全施設の整備			所属班	工務班	(内線)	2277
予算科目		会計 1	款 8	項 2	目 3	事業連番 10044	☐ 20年度で終了 ☐ 21年度から開始		成果優先度評価結果 1 コスト削減優先度評価結果 12
事業期間		☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返(開始年度 年度) ☒ 期間限定複数年度 (18 ~ 23 年度)							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)									
【事業の内容】 県道住吉熊本線を東西に縦断し、幹線的役割を果たす市道L=1400mの歩道設置、舗装をおこなう改良事業である。 【業務の流れ】 17年度 ①地域より要望を受け、②現況状況の把握により必要性を検討、③地元説明会を開催し要望を再確認 18年度～ ④補助事業採択申請、⑤測量設計業務、関係機関との協議、⑥道路改良工事及び、検査等、⑦補助事業竣工確認検査 23年度に全線完成の予定 【主な予算費目】 事業費は、委託費(測量設計)・補償費・工事費・事務費(消耗品費)に支出される。									

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 関係機関との協議、道路改良工事	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) 関係機関との協議、道路改良工事
	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) ア 道路改良工事 m → イ
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 建山2号線道路	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) ア 全延長 m → イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 歩道のバリアフリー	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) ア 整備率 % → イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) 事故誘発の要因とならない道路になっている	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) ア 設置箇所数/地区からの要望箇所の内、必要と判断された箇所数×100 % → イ

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 目標	23年度 予定	全体計画 18 ~ 23 年度	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	23,100	22,000	16,500	16,500	19,250	22,000	22,500	125,350
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円	17,900	17,100	12,800	12,800	14,900	17,100	17,500	97,300
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	1,000	900	700	700	850	900	1,000	5,350
	(A)事業費計		千円	42,000	40,000	30,000	30,000	35,000	40,000	41,000	228,000
		うち指定経費	千円	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
		うち時間外、特殊勤務手当	千円	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
			千円								
人件費	正規職員従事人数	人	2	4	2	6	2	2	2	2	18
	延べ業務時間	時間	666	490	666	679	666	666	666	666	3,833
	(B)人件費計	千円	2,644	1,950	2,651	2,702	2,651	2,651	2,651	2,651	15,255
トータルコスト(A)+(B)		千円	44,644	41,950	32,651	32,702	37,651	42,651	43,651	43,651	243,255
活動指標		ア イ m	220	280	160	160	200	270	270	270	270
対象指標		ア イ m	1400	1400	1400	1400	1400	1400	1400	1400	1400
成果指標		ア イ %	15.7	35.7	47.1	47.1	61.4	80.7	100	100	80.7
上位成果指標		ア イ %	90	92.5	92	92	93	95			95

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

地元要望により、必要性の検討の結果、平成18年度から事業開始となった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

変化は見られない。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

地域住民並びに道路利用者からの歩道整備(バリアフリー)の要望がある。

事務事業名	建山2号線交通安全施設整備事業	所属部	都市建設部	所属課	建設課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部(SEE)＊原則は20年度の後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 車道と歩道をバリアフリーにすることで、安全・快適に通行できる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 本路線は市道であり、安全かつ快適な通行を図ることは市の義務であるため妥当である。
	③対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 道路整備は、通行車両等において必要不可欠な事業であり、施行後は快適に移動できる手段として利用されるため、意図も適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 成果は事業が完成しないと発揮できないが、事業最終年度完了を目標に道路整備を進めて行く。
	⑤廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) ☒ 影響有 ⇒【その内容】 道路整備を行わなければ、安全な通行に支障をきたすため、事業を廃止・休止することは地域の活性化を阻害することとなる。
	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 市道整備においては、庁舎内でも建設課のみ施工しており類似事業はない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 工事積算においても、リサイクル法等の適用によりコスト縮減に努め経済比較を行いながら単価等の決定を行っているため余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 本事業は、国庫補助事業採択により施行しており、事業主体は市とされているため必要最小限度内において職員を分担している。よって正職員以外の職員は担当できない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 地域はもとより市民の通行利用もあることから、公正であると判断できる。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	⇒ ①目的妥当性については、…。 ②有効性については、…成果は事業が完成しないと発揮できないが、事業最終年度完了を目標に道路整備を進めて行く。 ③効率性については、…。 ④公平性については、…。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 現在は一定区間の整備であり、今後において接続する市道の整備を推進し、アクセス道路の確立を図る必要がある。	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>●</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●																			
	低下																					

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1)目的の直結度	4	(直結度高い 1～3 直結度中 4～6 直結度低い 7～9)
(2)貢献度	6	(貢献度高い 1～3 貢献度中 4～9 貢献度低い 10～12)